

ニュージーランド

概要

人口 4,400 万人

首都 ウェリントン (マオリ語で Te Whanganui a Tara)

公用語 法律上 マオリ語 (マオリ言語法 1987 年)
ニュージーランド手話 (NZSL 法 2006 年)
事実上 英語

ろう協会

デフ アオテアロア ニュージーランド (<http://www.deaf.co.nz>) (前ニュージーランドろう協会 2009 年 6 月名称変更)

手話通訳者協会 ニュージーランド手話通訳者協会
SLIANZ (www.slianz.org.nz)

ろう者人口

ニュージーランドのろう者の数についての正確な統計は取りにくい。2001 年国勢調査を調べた 2005 年の報告では聴力損失を自己申告する者はおよそ 10.3% (40 万人弱)であった。

2006 年以降の国勢調査は、2 万 4 千人強が日常会話でニュージーランド手話 (NZSL)を使えと、2220 人は NZSL のみが彼らの言語であると報告している。NZSL を好ましい言語とするろう者の数は概算で 4500 人から 7000 人である。

権利を守る法律

ニュージーランド手話法 (2006 年)

目的

- ・ NZSL はニュージーランドの公用語であることを宣言する
- ・ 法的手続き (法廷など) にて NZSL の使用を備える
- ・ NZSL の法手続き通訳に能力基準を設ける法規作成に公的権限を与える
- ・ NZSL の使用と普及促進において政府機関を導くための原則を言明する

ニュージーランド手話法の見直しが 2011 年初めに行われ、法施行状況や目的達成確証のため変更の必要があるかなどが見直されている。その結果はまだ公表されていない。

国連障害者権利条約（2007年）

ニュージーランドは権利条約の交渉におけるリーダーとなった。ニュージーランドは2007年3月にこの条約に署名し、2008年に批准した。

ろう教育

ニュージーランドにはろう教育センターが2つある。北島（ノースアイランド）の中部と北部をカバーするケルストンろう教育センターと北島の南部と南島（サウスアイランド）をカバーするヴァン・アッシュろう教育センターである。いずれも特別寮制学校、全日制学校、より広い地域の為のリソースセンターとしての役割を持つ。

ろう児のほとんどは地域のメインストリーム学校へ通い、教師補佐や巡回教師の支援を受ける。

手話

ニュージーランド手話（NZSL）はイギリス手話とオーストラリア手話に密接なかわりを持っている。オーストラレーシアサインディングリッシュが1980年代にトータルコミュニケーション概念の一部として導入され、NZSLに影響を与えた。

音声言語

英語（人口の95%が話す）とTe Reo Maori（マオリ語）（4,1%が話す）がニュージーランドの公用語である。

さらに、英語を話さない人が2,2%いて、多くの移民言語が話されている。ヒンディー語、中国語、韓国語、アフリカーンス語を話す人々が増えている。

手話通訳者

手話通訳者の人数

ニュージーランドで資格を持った手話通訳者の正確な数はわからないが、1992年の開始から100人以上の学生が手話通訳学士を取得して卒業していると概算される。さらに、海外で養成されニュージーランドに住み、仕事をしている通訳者も少数いる。卒業生の多くは通訳者として活動していないこともあり、活動している通訳者の数はおよそ少なく見積もって65人くらいであろう。

資格を持たない通訳者も多くコミュニティ場面やメインストリーム教育現場の教師補佐として活動している。

通訳者組織

SLIANZ ニュージーランド手話通訳者協会 (www.slianz.org.nz)

会員数

SLIANZ には 2010 年 68 人の正会員がいた。(前回の WASLI 報告時 52 人より) 会員数は増加している。

現会員年度初めには 64 正会員(ニュージーランドでの資格が認定された海外(イギリスやオーストラリア) 資格を持っている。) 5 準会員、3 名誉会員、7 法人会員

通訳者養成について

NZSL 専門職養成は 1992 年からオークランド工科大学での手話通訳学士プログラムで提供されてきた。これは大学入学標準条件に NZSL 基礎技術を加えた全日制 2 年の学部学生用の科目であった。学士号が導入されてから、バイリンガリズムと通訳能力に適した十分なレベルにはより長い期間の学習が必要となることが明らかとなり、養成課程は 3 年学士専攻課程に拡張された。第一期生は 2013 年に卒業予定である。

オースラン(オーストラリア手話)/英語通訳(NZSL)の大学院学位は現在のところマクワイアー大学とウエリントンビクトリア大学とに分けられている。このコースの 2 年生は現在 12 人いる。

通訳者の試験/評価について

現在のところ、卒業後の手話通訳者認定や試験のための独立したシステムはない。全国的な通訳者認定団体がないので、手話通訳学位がニュージーランドで手話通訳者として働くための最低限資格基準として認められている。

マオリ通訳者翻訳者のためのマオリ言語委員会以外には、音声言語通訳者翻訳者のための全国的認定システムもない。したがって、言語通訳者はオーストラリアの NAATI(翻訳通訳者のための全国認定局)に認定申請をすることもある。この方法は、オーストラリアでは使われないということで、NZSL/英語通訳者には適用されてこなかった。しかし、オーストラリア手話/英語(NZSL)の大学院生にはコースの一部として NAATI の試験を受けることになった。

2007 年以降の主要な成果

NZSL 週間が 2007 年以降、NZSL 法制定記念日の週に毎年開催されている。デファオテアロアニュージーランド主催で NZSL が公用語であること、ろうコミュニティについて、彼らの社会参加を妨げるバリアーの認知度を上げる一週間となる。NZSL 週間により、より広く社会に NZSL が知られるようになった。NZSL 週間にデファオテアロアはインタープリター・オブ・ザ・イヤーを含む活動賞を表彰する。

サービス見直しに従ってデファオテアロアは通訳サービスを再構築した。iSign（手話通訳者オンライン予約システム）が確立された。iSign 確立が労働条件や報酬条件の見直しをもたらし、通訳サービスに課される時間給の全体的な増加へとつながった。

ビデオリレーサービスは2009年に始まり現在は一つのコールセンターで基本的に年中無休24時間サービスが提供されている。ビデオリモート通訳はまもなく導入される予定である。（情報源 www.nzrelay.com）

2011年2月クライストチャーチの壊滅的地震と続いている度重なる余震がクライストチャーチやその地域のニュージーランド人を脅かしている。地震のすぐあと、クライストチャーチの手話通訳者たちはメディアの最新情報を素早く提供し続けた。通訳者、イブリン・ペイトマンとジェレミー・ポーランドにはその厳しい状況下の際立った活動に対して、インタープリター・オブ・ザ・イヤヤーが与えられた。

SLIANZ は次第に WASLI オセアニア地域と関わりを持つようになり、フィジーの通訳者が毎年 SLIANZ 会議に参加できるよう支援してきた。我々はプロジェクト支援のための資金調達に成功し、フィジーの通訳者が新たにソロモン諸島の通訳者の掘り起しの助けとなった。

これからの2-4年間で WASLI に貢献できること

現在進行中のフィジーとソロモン諸島の通訳者支援と WASLI オセアニア地域内の国々の後援を継続する

今後の目標

倫理綱領の見直し

ろう者や聴者の通訳サービス利用者との緊密なつながり；通訳基準、苦情手続、会員区分の見直しに関することを含む

出典

Greville A (2005) ニュージーランドの聴力障害者とろう者 人口の数と特色についての最新情報 2011年5月7日 回収版

<http://www.oticon.org.nz/pdf/HearingimpaireddeafpeopleNZMar05a.pdf>

ニュージーランド統計(2006)国勢調査2006 2011年1月7日回収版

<http://www.stats.govt.nz/Census/2006CensusHomePage.aspx>

ニュージーランド統計(2011)人口時計2011年6月7日 回収版

http://www.stats.govt.nz/tools_and_services/tools/population_clock.asp

X